

2026. 3. 12

つながる、次へ

開館40周年記念展

# 静岡県立美術館をひらく 7つの扉

開館40周年記念展  
静岡県立美術館を  
Hiraku: An Entrance to the Art  
Seven Departments  
of the Shizuoka Prefectural  
Museum of Art

ひらく  
7つの扉

絵馬、額縁、人形も！

40歳に  
なったゾウ

ゴーギャン、若冲から  
大観、草間彌生まで

2026.4.25土—6.21日

開館時間 | 10:00-17:30 (開館前への入館は17:00まで)  
休館日 | 月曜日 ただし、5月4日(月・祝)は開館し、5月7日(木)休館。  
観覧料 | 一般 1400円(1800円) 70歳以上 700円(600円) 大学生以下 無料

※( )内は高校生及び30歳以上の観覧料也。 ※ゾウ像も併せてご覧いただけます。  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証・指定難病医療費助成の  
交付を受けている方と付添者1名は無料。 ※入場には予約が必要です。

主催 | 静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 <https://spmaa.shizuoka.shizuoka.jp>  
お問い合わせ | 企画総務課 Tel. 054-263-5755 Fax. 054-263-5767 学芸課 Tel. 054-263-5557

静岡県立美術館  
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

## 展示概要

静岡県立美術館は誕生してちょうど40年。「風景の美術館」をうたい、日本・西洋の風景画を中心に2900点を超えるコレクションを築くとともに、多彩な展覧会を重ねてきました。開館40周年を記念するこの展覧会では、狩野探幽、伊藤若冲、ゴッティン、川村清雄、草間彌生など、コレクションから厳選した作品をてがかりに、美術の世界の広がりを探求する旅へとみなさんをお連れします。7つの部屋が待っています。扉をひらけば、そこは展示室であるとともに実験室。絵の外側にまで目を向ける、絵の具の厚み＝絵の高さに注目する、風景画とは何か、作者とは誰なのかを考えるなど、ふだんとはちょっと違う体験ができる部屋で、館長と5人の学芸員がお待ちしています。40年にわたるこれまでの歩みを振り返り、これからの美術館の姿を示します。

- |     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 第1室 | 美術館とは何だろう<br>猿猴庵が案内する美術館以前の世界 |
| 第2室 | 絵画のかたち、油絵の居場所                 |
| 第3室 | 風景をあつめる                       |
| 第4室 | 絵画を立体的に観る                     |
| 第5室 | 評価と名画                         |
| 第6室 | 美術家をめぐる物語                     |
| 第7室 | 人形と彫刻、ロダンへの道<br>アーカイブ展示       |

## みどころ

- 館長と5人の学芸員による共同キュレーション展示**  
木下直之館長と静岡県立美術館の5人の学芸員が、それぞれの部屋で美術館を「ひらく」問いを投げかけます。
- 絵馬に額縁、人形も！ゴッティン、若冲から大観、草間彌生まで120点を超える作品や資料を紹介！**  
伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》（当館蔵）を三次元計測して制作された、触れる《樹花鳥獣図屏風》も展示します。
- 会期中はイベント盛りだくさん！**  
**講演会やワークショップ、バックヤードツアーも開催**  
講演会や連続講座のほか、鈴木康広氏によるワークショップや柿の木プロジェクト、SPAC共同の対話型鑑賞会、プロムナード/バックヤードツアーなど関連イベントを多数開催します。

展示構成

第1室 美術館とは何だろう



谷文晁《神馬図》1831年  
浅草寺蔵

まずは第1問、絵馬は絵なのか馬なのか？ 生きた馬のかわりに、描いた馬を捧げたのが始まりだとすると、絵馬は絵である前に馬なのだといえそうですね。捧げる相手は神や仏でした。美術館は展示室から神仏を追い出し、絵馬を絵として眺める場になったのかもしれませんが。

猿猴庵が案内する美術館以前の世界

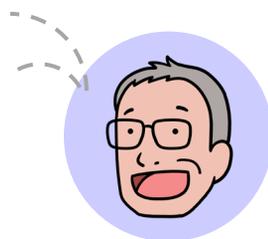
猿猴庵は高力種信(こうりきたねのぶ)という尾張藩士。絵が得意で、名古屋城下のさまざまなイベントを記録しました。開帳、見世物、お祭り、そしてお寺の境内で、北斎が120畳敷きの紙に大ダルマを描いたパフォーマンス。まだ美術館がない時代、こうしたイベントにひとびとは熱狂しました。



本多錦吉郎《羽衣天女》  
1890年 兵庫県立美術館蔵  
重要文化財



高力猿猴庵《北斎大面即書細図》  
江戸時代後期 名古屋市博物館蔵



木下館長

第2室 絵画のかたち、油絵の居場所

絵ではなく、油絵の「かたち」をじっくりご覧になったことはありますか。油絵は額縁におさめるもの。そんな当たり前も明治以降、先人たちの努力によって築かれてきました。この部屋では、油絵には額縁というあたりまえを見つめ直します。



喜多学芸員

山本芳翠《猛虎一声》  
(額縁製作 磯谷商店)  
1895年 東京藝術大学蔵





つながる、次へ



## 第6室 美術家をめぐる物語

美術家とは、どのような人物なのでしょう。作品のように個性的、あるいは気難しい性格でしょうか。美術家自身がメディアによく登場していたり、反対に姿が見えなかったりする場合があります。ここでは、美術家の語られ方や、美術家と作品の関係に注目します。



植松学芸員



草間彌生《最後の晚餐》1983年頃 当館蔵  
©YAYOI KUSAMA \*画像転載不可



小池一誠《石》1970-80年代  
小池明子氏蔵



## 第7室 人形と彫刻、ロダンへの道

人形は「ひとがた」ともいい、その字のとおり、人の姿をかたどったものです。大昔から、さまざまな理由で、人は人形を必要としてきました。神や仏の姿をつくる時にさえも。近代の彫刻家も、ひたすら人間像に取り組んできました。そのひとつの高みにロダンがいます。



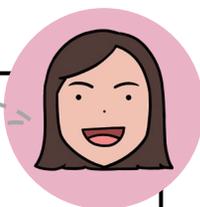
平野富山《マフラーの女》  
1983年頃 静岡市（静岡市美術館管理）



木下館長

### アーカイブ展示

開館40周年を迎えた静岡県立美術館の成り立ちを、美術館アーカイブズからご紹介します。美術館の活動やコレクション形成にまつわるあれこれを振り返り、静岡県立美術館のこれからを考えます。



古家学芸員

## 関連イベント

**館長美術講座「ひらけ美術館—絵馬は絵なのか馬なのか」**

4月25日(土) 14:00-15:30 会場：当館講堂  
申込不要／参加無料 先着250名まで ※手話通訳あり

**講演会「作品の“居場所”をあれこれ考える」**

5月9日(土) 14:00-15:00 会場：当館講堂  
\*申込不要／参加無料 先着250名まで  
講師：丹生安典氏（早稲田大学名誉教授）

**講演会「最新デジタル技術で迫る伊藤若冲《樹花鳥獣図屏風》」**

5月17日(日) 14:00-15:30 会場：当館講堂  
\*申込不要／参加無料 先着250名まで  
講師：木下悠氏（TOPPAN文化事業推進本部）聞き手：薄田大輔（当館学芸員）

**対談「風化をめぐる」**

6月14日(日) 14:00-15:30 会場：当館講堂  
\*申込不要／参加無料 先着250名まで  
講師：鈴木久雄氏（彫刻家）× 木下直之（当館館長）

**学芸員による連続講座**

5月30日(土)、6月6日(土) いずれも11:00-15:00（予定、途中休憩あり）  
会場：当館講座室 \*申込不要／参加無料 先着30名まで  
5人の担当学芸員が、それぞれのテーマについてお話しします。

**時の蘇生・柿の木プロジェクト 植樹式&ワークショップ**

4月29日(水・祝) 講師：楡木令子氏（アーティスト）  
\*ワークショップ・要申込 募集開始：3月26日(木)～／植樹式・申込不要  
ワークショップと当館裏山で、柿の木の植樹を実施します。

**ワークショップ「美術館をひらく」**

5月16日(土) 講師：鈴木康広氏（アーティスト）  
\*詳細は美術館公式ウェブサイトのイベントページにてお知らせします。  
日常の見慣れた事柄や現象を新しい観点から捉えなおす作品や活動で知られる鈴木康広氏を講師に迎え、「美術館をひらく」をテーマにワークショップを実施します。

**見えない人と見える人のおしゃべり鑑賞会**

5月24日(日) 14:00-15:00頃  
\*要観覧券／要申込 募集開始：4月下旬を予定  
視覚障害者と晴眼者がそれぞれの見方・感じ方を伝えあいながら作品を鑑賞します。

**SPAC×静岡県美「ことばでひらく、アートの物語」(対話型鑑賞)**

5月31日(日) 10:30-、13:30- (各回60分程度)  
対象：小学生+保護者 (各回5組)  
\*要観覧券／要申込 募集開始：4月下旬を予定

**プロムナードツアー／バックヤードツアー**

5月23日(土) 11:00- (バックヤード) / 14:00- (プロムナード)  
6月13日(土) 11:00- (プロムナード) / 14:00- (バックヤード)  
対象：小学生以上 各回60分程度  
\*参加無料／要申込 (定員15名) 募集開始：4月下旬を予定

美術館のプロムナードと、普段はお目につかない収蔵庫など美術館の裏側を本展担当学芸員と探検します。  
※荒天の場合、プロムナードツアーはバックヤードツアーに変更となります。

つながる、次へ

開催概要	展覧会名	開館40周年記念展 静岡県立美術館をひらく 7つの扉
	会期	令和8(2026)年4月25日(土)～6月21日(日)
	会場	静岡県立美術館(静岡市駿河区谷田53-2)
	休館日	毎週月曜日 ただし、5月4日(月・祝)は開館し、5月7日(木)休館
	開館時間	10:00～17:30(展示室への入室は17時まで)
	観覧料	一般1,400円(1,200円) 70歳以上700円(600円) 大学生以下無料 ※( )内は前売および20名以上の団体料金。 ※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は無料。
	主催	静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
	アクセス	JR東海道線「草薙」駅県大・美術館口から徒歩約25分またはバス(草薙美術館線県立美術館行き)約6分、「県立美術館」バス下車。 静岡鉄道「県立美術館前」駅南口から徒歩15分またはバス(草薙美術館線県立美術館行き)約3分、「県立美術館」バス下車。 JR「静岡」駅からバス(北口11番のりば/県立美術館線県立美術館行き)約30分、「県立美術館」バス下車。 東名高速道路 静岡IC・清水ICから約25分、日本平久能山スマートICから約15分。新東名高速道路 新静岡ICから約25分。

## 次回企画展

「NHK日曜美術館 50年展」 2026年7月18日(土)～9月27日(日)

## 同時開催展情報

静岡と茨城、二館で“7つの扉／とびら”が同時にひらく！



富山県水墨美術館コレクション  
「水墨画を楽しむ7つのとびら  
一富岡鉄斎、竹内栖鳳、横山大観から加山又造へ」

会期：2026年4月25日(土)～6月21日(日)  
会場：茨城県近代美術館  
(〒310-0851茨城県水戸市千波町東久保666-1)  
Tel：029-243-5111 Fax：029-243-9992

白と黒を基調とする色彩に、無限の広がりを見せる水墨画の世界。本展では、富山県水墨美術館が誇るコレクションから幕末から現代に至る名だたる画家たちによる約70点を厳選し、7つの「とびら」を手がかりに水墨表現の奥深い魅力に光を当てます。

## 本展に関するお問合せ

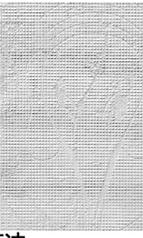
静岡県立美術館 〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53-2  
Tel：054-263-5857 Fax：054-263-5742  
E-mail：gakupei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp  
soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp  
担当：喜多(学芸課)、佐々木(企画総務課)

広報用画像  
申込書

E-mail : [gakugei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp](mailto:gakugei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp) / [soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:soumupma-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp)

FAX : 054-263-5742 担当 : 喜多 (学芸課) 佐々木 (企画総務課)

本プレスリリースに掲載されている作品画像を、展覧会広報用に提供いたします。  
ご希望の画像番号に○をつけて必要事項を記入し、上記メールアドレスまたはFax番号宛にお申し込みください。

<p>1</p>  <p>谷文晁《神馬図》 1831年 浅草寺蔵</p>	<p>2</p>  <p>本多錦吉郎《羽衣天女》 1890年 兵庫県立美術館蔵 重要文化財</p>	<p>3</p>  <p>高力猿猴庵 《北斎大画即書細図》 江戸時代後期 名古屋市博物館蔵</p>	<p>4</p>  <p>山本芳翠 《猛虎一声》 1895年 東京藝術大学蔵</p>
<p>5</p>  <p>ポール・ゴーギャン 《家畜番の少女》 1889年 静岡県立美術館蔵</p>	<p>6</p>  <p>伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》 18世紀後半 静岡県立美術館蔵</p>	<p>7</p>  <p>伊藤若冲 《樹花鳥獸図屏風》(右隻部分) 三次元計測画像</p>	<p>8</p>  <p>横山大観 《群青富士》1917~18年頃 静岡県立美術館蔵</p>
<p>9</p> <p>*画像転載不可</p>  <p>草間彌生《最後の晩餐》 1983年頃 静岡県立美術館蔵 ©YAYOI KUSAMA</p>	<p>10</p>  <p>小池一誠《石》 1970-80年代 小池明子氏蔵</p>	<p>11</p>  <p>平野富山《マフラーの女》 1983年頃 静岡市(静岡市美術館管理)</p>	<p>12</p>  <p>本展ポスター</p>

※No. 9 草間彌生《最後の晩餐》の画像利用にあたっては、レイアウトの確認にお時間いただく場合がございます。

■ 申込者基本情報

御社名	_____	媒体名	_____
発行・放送予定日	_____	発行部数	_____
TEL	_____	FAX	_____
E-mail	_____	URL (ウェブの場合)	_____
連絡欄	_____		

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。  
プレゼント用招待券を【希望する・しない】  
送付先住所【〒 \_\_\_\_\_】

【画像ご使用に際してのお願い】

- \*画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。
- \*画像キャプションを必ず明記し、画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
- \*基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \*掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。